

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより 1 番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

まだまだ私も力不足で、日本語というのは本当に非常に難しい。思いを伝えようとしてもなかなか違う意味でとられたりする場合も多々あり、さきの議会でも教育についての質問、今の教育環境は周辺部の方々には通学時間、通学費用の面など、中心部、駅に近い方よりどうしても厳しい状況であり、周辺部対策もこういったところからも考えなくてはならないということをつもりでしたけど、なかなか伝わっていない方もいらっしゃるようで、今後もなお一層努力しないといけないと反省しているわけでございます。

その教育についてですが、ここ最近の新聞記事でも御存じのとおり、中高一貫校の抽せん廃止検討の話題であります。さきの議会でも私を含め、そしてほかの先輩議員も訴えており、市民の皆様の声が届いた方向転換、まことにうれしい限りでございます。

実は高校再編の問題のときも、もっと市民の皆様の声が届いていればと、浦郷教育長のようにしっかり市民の声を届けていただけたというような仕組みがあっていたらと、いまだにそういう気持ちを私は持っております。

今後、さまざまな議論もあるかと思えますけど、武雄市の、そして佐賀県の子供たちにとってよりよい教育環境をつくっていただくために、なお一層御努力いただきたいと思います。

それでは、通告に従って質問させていただきます。

まず最初に、防災についてでございます。

今現在、武雄市に限らず防災について全国各地で災害対策について非常に活発に論議されており、動かれており、我々武雄市においても、さきの議会、補正予算で災害対応の食料、また飲料水など備蓄して、市民の皆様が万が一被災した場合でも対応できるような取り組みがなされているわけでございます。そういったことから、先日 9 月 2 日に市の総合防災訓練、これを市民参加型で行われるなど、市民の皆様ご安心・安全を確保するため非常にいい取り組みだと思っております。

その中で、先日ある方からの質問で、万が一災害に遭った場合、当然避難を考えなくてはならない。そういった場合にどこへ避難すればいいのか、そしてどのタイミングで避難すればいいのかという質問がなされました。備えを行うのであれば万全な態勢を確保すべきで、食料備蓄ももちろんですが、その避難について教えてほしいということでした。

まず最初に、市民の皆様はどのタイミングでどこに避難すればいいのか、これについてまず御答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、地域防災計画を見直した際に、避難場所と避難施設の両面の機能を有する公共施設の中から小・中学校の体育館、町の公民館など31カ所を指定避難所といたしております。また、新たに指定避難所を確保することが困難な地域の一時的な避難場所ということで、面積等一定の条件を満たす自治公民館等で自治会等との協議により市が指定する地域避難所を98カ所選定いたしております。

こうした選定避難所の周知と時期につきましては、早急に地域避難所の指定について施設管理者等と協議を実施した後に、年内にも避難場所の情報について市報等を通じながらお知らせをしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

市報等で全部で129カ所の指定避難所、一時避難所があるというようなことで、これは先日も市の総合防災訓練の様子がケーブルワンのほうでも放映されておりましたので、それを見られた方は何となくイメージできるのかなとは思いましたけど。

その中で、先ほど市報でとおっしゃいましたけど、私が考えるに、今やっぱり災害も、家にいるとき、職場にいるとき、その他もろもろ、やっぱり各地区全体をとということで、何というですかね、避難する状況、状況を、市報だとどうしても情報が小さいかなという気がするのですが、よかったですよ、例えば学校なり、公民館なり、そういったところにポスター的な感じで常時張っておくような形を考えられんかなとは思っておりますけど、その辺いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

確かに避難場所をわかりやすくというのは当然のことというふうに思っております。そういったことで、19年度に避難場所の標識設置購入費というのも予算化をいたしておりますので、今後先ほど申しましたような指定避難所、それから地域避難所の施設管理者と協議が調い次第、設置をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

市報にももちろん載せてもらいたいというのがあって、災害はやっぱり時と場所を選ばんわけで、私が災害に遭ったときに一番やっぱり怖いと思うのは、子供と一緒におらんとき

の災害が一番怖いと思うわけですね。もちろん四六時中一緒におるわけではなかけんですね、一緒にいないときの被災、そういった避難した場合、子供もどこにいてどこの避難所に避難したがよいかというのは、子供たちもなかなか言うてわからんところもあるかなと。親にとってやっぱりこれほど心配なものもなかと思うわけですね、そういうことから、ふだんここにいるときはここよ、ここにいるときはここよというような家庭での指導ももちろん必要になってくると思います。そこらあたりも今後、各家庭での取り決めとか、各家庭でのルールづくりというのはぜひやっていただきたいと思うし、そういったときには市報の情報というのは重要になってくるかなと。

そういったところで、次に、避難について、単身高齢者の方とか体の不自由な、要は要援護者というか、援護を必要とされている方の避難、自力で避難できない場合、こういったところはどのような対策をなされておられますか、御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成18年度に災害時に高齢者、障害者など災害時要援護者に対する災害情報の伝達とか、避難誘導等を実施する際の具体的な避難支援計画を作成するために、行政、福祉団体、行政関係団体、地域団体の推薦する方々などから成る武雄市災害時要援護者避難支援連絡会議を設置して協議を進めているところでございます。（パネルを示す）

お手元に資料をお配りしているかと思えますけれども、この平常時というところで、先ほど言いました支援連絡会議を今設置をして、福祉関係とか地域の方々、特に消防団、自主防災会議等が入っていただきまして、そういった高齢者、要援護者に対する対策等の協議を行っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど言いました先日のケーブルワンでの防災訓練の様子が放送されておりましたけど、やはりここで活躍されるのは常日ごろ市民の皆様の安心・安全を確保するため活動されている地元の消防団の皆さんなんか非常に頼りになってくるわけでございます。ふだんから市民の皆様の生命と財産を守るために奉仕されているわけですけど、先ほどのパネルにもありましたように、支援対象者の決定ですね。今の時代、どうしても個人情報保護法の関係等もありまして、なかなか情報を得にくい部分もあるかと思うわけです。その中で、単身高齢者、要援護者の方などがどこにいらっしゃるか、情報が見つみづらい面もやっぱり出てくるんじゃないかなと。

消防団の方は毎月、点検業務や広報の巡回などを行っておられますので、団員の方が常日ごろそういう要援護者の方がどこにいらっしゃるというのを常々熟知していく必要があるかなど。ですから、この辺の兼ね合いもあって、情報の取り扱いについては、もちろんいろいろと検討すべき問題とかもあるかと思えますけど、現時点でのその辺の対応についてはどうお考えでしょうか、御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

要援護者の個人情報の目的外使用というのが非常に厳しゅうございますので、これにつきましては、個人情報保護審議会の答申を得まして、総務課で対象者までは把握をしております。

その対象者といたしましては、高齢者のみの世帯、それから身体障害者手帳交付者、それから要介護3以上の方とか、そういった方々を8,500名ほど現在把握をいたしているところでございます。これを今後個人ごとの具体的な支援策というのを実施していく上で、本人から同意を得るわけでございますけれども、個人プランの作成を行って、それをもとに、今度は支援をしていただく方に、避難誘導していただく方にお知らせをしていくということで考えているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

要援護者の方の同意を得て、それをもとに消防団なりなんなりをお願いをしていくというような段取りでいくわけですね。

今の時代、何かと便利になりましたけど、携帯電話文化でついついそういった災害のときは携帯電話に頼りがちにはなるかと思うんですけど、その携帯電話なんかちょっとした地震などですぐストップすることが多々あって、いざというときデジタル文化が効果ば発揮できずに、日ごろの消防団のアナログ的な活動が頼りになってくるんじゃないかなと思うわけです。もちろんそういう災害に遭わんで訓練のみ行うというような形が一番いいんでしょうけど、もしかしたら、あしたそういう災害が起きるかもしれないというような今の状況で、ぜひそういった市民の皆様の安心・安全を確保していただくような仕組みを一日も早く確立させていただきますようお願いして、次の質問に入りたいと思います。

続きまして、保養村についてです。

先日、策定されました武雄市総合計画ですけれども、第2編に「緑とまち並みが織りなすうるおいのまち」の第1章1節に、「自然環境の保全と活用」のところで保養村が出てきて

います。保養村の有料利用者数が2005年度の2万5,800人を10年後には3万人にするという目標が掲げられております。

施策の内容として、既存の施設や機能を有効活用し、自然体験など通じ自然環境を学ぶ機会をつくりますなどと記されておりますけど、ちょっと本当にそれだけで目標達成できるのかなと、正直疑問があるわけです。これまでそういった自然体験など事業が全く行われていなかったもので、今後やっていくというのであれば、もちろんそういう魅力のアップもありかなと思いますけど、これまでも関係者の皆さんの御努力によってトムソーヤ体験とか、さまざまないろんな事業が展開されているはずだと思うわけですよ。

その辺で、何を根拠にこの目標値、およそ15%アップを期待されているのか、この辺をもうちょっと明確に答弁お願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えします。

総合計画で先ほど言われましたように3万人の目標でございますが、これはあくまでも目標でありまして、これについては保養村だけじゃなくて、とにかく武雄市全体にお客さんを呼び込もうというのが1つありまして、その中で保養村が持つおる自然景観を残してそこにお客さんを呼び込もうということで、具体的に策はございませんが、とにかく努力をしていきたいということでございます。

今までいろんな施設の整備の提案もあっております。しかし、今の財政状況からいきますと、なかなかハードの整備が難しいということもありますので、先ほどありましたように、今ある施設を利用して、例えば民間活力の導入、それからソフト事業の展開、特にあそこはわんぱく広場もございまして、子供のトムソーヤ関係のそういうソフトの事業を取り込んでお客さんの誘客に努めていきたいというふうに考えています。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

策がないところに策を考えるのは私の仕事であります。

それで、皆さんどう思いますでしょうか。私、宇宙科学館、例えば、これは例えの例を出して申しわけないんですけども、宇宙科学館行ったときに学校給食とか出しよんさっわけですね、給食。上田議員知っとなさったですか。

〔上田議員「いや、知りません」〕

それは知らんばいかんです。それで、どういうふうにするかというのを提案するのが議員の仕事だと僕は思うわけですよ。

そんなときに宇宙科学館に行って、果たして給食は食べたかかなと。それよりは、例えばNASAが出している宇宙食とか、日清さんが出している宇宙食とか、ある意味そこで宇宙食の体験をする。無重力のときにカップラーメンばすすってもよかわけですよね。そういうことができないかということと、もう1つ、あそこテラスがあります。テラスば見いぎんだですね、カラスしかおらんやったですね。私は寒々しい思いがしました。例えば、そこで上田議員得意のイベントを打つとか、トークショーをするとか、そういうふうにして、今あるものを最大限に生かすことによってハードにソフトを加えるということができていないというふうに私は思っております。

そういった積み重ねをやれば、もともと、例えば宇宙科学館の例えの例を出しましたけれども、十分潜在能力はあると思います。そういうことで、私は一例を申し上げますと、そういう食をもう少しきちんと宇宙科学館のコンセプトにするというのと同時に、例えば、あそこで披露宴をやるとか、そういったこと。そして、いろんなイベント組み合わせるときに、何か保養村何とか祭りとかといってもなかなかインパクトもなかですね、そこに、これは答えを持ち合わせていませんけれども、そういうポスターをきちんとつくるとか、「がばいばあちゃん」のあのポスターだけでも4万枚はけたわけですね。だれが飾っているんだろうかと思うくらいはけておるわけですね。だから、そういうふうにインパクトのある広告と中身を今組み合わせるべきではないかというふうに考えております。

そういったことを組み合わせれば、私は100%増とは言っておりません、たかだか15.8%増でありますので、それは目標に関しては十分に達成可能だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

済みません。部長と市長で答弁が違ったものですから、ちょっとパニックっております。

ソフト面の充実だけで15%アップを達成するよというような答弁かと思います。総合計画の中にも、開発に当たっては生態系など自然に配慮した整備を促しますとは記載されており、もちろん環境保全といいますか、景観確保についてはわかります。その上で、この市の総合計画や第三次保養村整備計画などを見ても、一向に今後の開発の方向性というのは見えてこないわけで、この辺が、先ほどの部長の答弁の中でも財政面ですということですであつたかなというような感じもしておるんですけど。

やはりコストのかかる保養村整備、つまりハード面の整備はせずに、ソフト面の充実というか、今の状態のみでできることだけ行うということのようにとらえてよろしいんですかね。その辺、もう一度御答弁お願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に下水道整備、あるいはさっきの質問で出ましたけれども、地域の公共交通体系を考えた場合に、新たに保養村にハードをつくれる財政的な余裕はありません。だから、知恵を絞るべきだと、危機のときにチャンスありというふうに私は武雄市政を運営したつもりであります。そういったことで、ないことが今逆に、なぜ「佐賀のがばいばあちゃん」が武雄でロケをしていただいたかということ、逆に障害物がなかったわけですね。だから、そういうふうに引き算の美学、ないものをどういうふうに、これがいいんだというふうにもっと僕は自信を持たなければいけないというふうに思っています。

そういう意味で、今あるものを先ほど申し上げたようなイベントを打つことによって、例えば去年の5月を思い出します。貝原良太委員長が実行委員長を務めたときに、競輪場に1,800人も集まったわけですね。あるいは文化会館にG A B B Aのファーストライブ、これは島田洋七さんの講演がありました。苦情が出るくらい集まるわけですね。

だから、我々は政治家としてはそういったことを考える、それが我々に今難しい時代に課せられた役割ではないでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

保養村も、もちろんさっきの市長の答弁もわかりますけど、幾らも投資せずにこのままの環境保全というなら、もちろん私もわかるとですけど、これまで38億円もの予算を投じて整備されてきたという経緯があるわけですね、これから財政難やっけん　これからという言い方はおかしかですね。財政難ですので、中途半端な状態ではあるけど終了せざるを得ないということか、それとも38億円投資してその予算額に応じた整備が完了したということなのか、どちらかになるとかなど、そういうことでよろしいわけですかね。御答弁お願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

整備が完了したかどうかということについては私はわかりません。というのは、基本的に私はソフトを一生懸命　今ある38億円を投入して、今一定のハードを整備していただいております。これは議会の深い同意があって整備していただいております。それで一生懸命まずそのハードにのってソフト政策を打つことによって、それでも足りなかったら、ハードを打つべきだというふうに考えております。ソフトの施策を知恵を絞ることなくして次の段階に移るといことは考えておりません。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

考えはわかりました。

その保養村の有効活用について、私も前回の議会でも保養村のテーマの貧しさというか、乏しさというか、訴えたわけですね、私もブログとかメールをやっておりますんで、ありがたいことに市民の皆さんからもかなり多数の同意を得る意見を寄せていただきました。その中でも、私が言っています運動に着目したほうがいいということにも多数の賛成の意見を寄せていただいたわけですね。これについての提案で、もちろん市民の皆さんの声なんですけど、保養村を運動に着目する上での具体的な提案として、スポーツ合宿エリアとしての活用とか、スポーツ医科学研究所施設の誘致とか、整備されているグラウンドゴルフ場としての活用とか、いろんな具体的な案もいただいたわけですよ。その総合計画をベースで言えば、第1編第2章2節の「子どもをとりまく地域活動の充実」とか、体験活動の促進とかにもありますように、自然体験、地域間交流、異世代間交流とか伝承芸能継承、スポーツ、ボランティアなどさまざまな体験活動を促進しますとか、同じく第3章「健康で安心できる生活を築く保健・医療の充実」の中の1節「健康づくり」にも、地域医療機関などとの連携、温泉地としての利点を活用するため温泉を持つ施設との連携に努めますというふうにあるわけですよ。そういうふうにずっと読みよるぎ、やっぱりこの保養村というのは、その中心に位置しておるとやなかかなと感じるわけなんですけど、その辺で、今後どういうふうに保養村を持っていこうとされているのか、その辺のテーマが明確になっていけば、ちょっと御答弁願いたいと思いますけど、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、2つを考えております。1つは、先ほどるる申し上げているソフト展開ですね。例えば蛍、飛びますよね。あんどきでも、あの見事な蛍が飛びよるときに人間は余り来とらねすね。ことしはちょっと蛍が余り飛びよらんやったというのはあるかもしれない。去年は物すごい乱舞しておったですね。そのときに、他市の例を挙げて恐縮ですけども、小城の蛍は有名ですね。あれは物すごくちゃんと広告ば打ちよるわけですね。「じゃらん」に載ったり、「九州ウォーカー」ですか、こいに載ったりしとるわけですね。その広告展開がなかけんがですね、なかなかがんすごかとは初めて見たという東京のお客さんたちもおんさったです。なぜ宣伝せんですかと。だから、蛍も活用するという貪欲さがなければ、我々はだめだというふうに思っております。それが第1案です。

第2案については、いろんな誘致の話については、浮かんでは消え、消えては浮かんで、いろんな話が我々執行部の間にも寄せられています。そういう意味で、もしそういう具体の



話があったら、ぜひ我々のほうにまたつないでいただければありがたいというふうに思っております。なかなかこちらについては、民間活力の導入はぜひしたいというふうに思っておりますので、それはきちんと対応をしていきたいというふうには考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

その中で、先ほど2番目に言いましたスポーツ医科学研究所ですけれども、これもさっき企業誘致の一環になるかと思うわけですが、これも今現在私が知る限りでは、福岡などで研究されているような団体はありますけど、佐賀県内はもちろん、九州内に本格的なスポーツ医科学研究所施設というのはないわけですね。全国の例を探してみても、大学の研究機関的な施設が主ではありますけど、独立行政法人とか財団法人、医療法人、そして民間の企業などによるもの、形態はさまざまな形態で運営されておりまして、もちろん東京とか大阪、愛知など大都市圏にも存在しているわけです。

そこで、さっきも浮かんで消え、消えては浮かんでとおっしゃっていましたが、その武雄保養村の最適な自然環境、そして、ここで大きな切り札になるのが温泉だと思うわけですよね。そういった武雄市にスポーツ医科学研究所施設とかの誘致というのは考えたことありませんかねとあってですね。これは佐賀県にもなかわけだし、県と一緒に考えてもいいのかなと。市長、そういった人脈とかはお持ちじゃないかなと思うわけですが、その辺の市長なり副市長なり、そういった考えはあられませんか、御答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

大田副市長

大田副市長〔登壇〕

答弁要旨を読んで初めて知りましたので、人脈はありませんけれども、それなりに勉強して、それなりに考えて、県のほうに相談はしてみたいと思いますけれども、期待はちょっと薄いのかなとっております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひそういったアンテナは常に張りめぐらしておいてほしいなという気がします。

今回終わった佐賀総体、武雄にも先ほどの質問で、経済効果が3億円という答弁があったと思いますけど、今後、こういう同様の取り組みに着手することがやっぱり必要不可欠なのではないかなと。今回の総体を見れば市民の皆さんも納得されるんじゃないかなという気がします。

私も今回の総体がきっかけで自転車競技というのを十分観戦できました。このロードレー

ス観戦の評判の高さというのは、市長の耳にも十分届いているんじゃないかなと思っております。私もロードレースについてもいろいろ調べたところ、日本全国でもロードレースはありよるわけですね。北海道や沖縄、草津、堺、もう数えたら本当に切りがないくらい各地でツールド何とかどこどこかですね。これは若干ニュアンスは違いますけど、総合計画にも六角川河川堤防などでサイクリングロードとか、これはちょっとニュアンスは違うとですけど、武雄でもそういう取り組み、フットサル振興はもちろんですよ。それとあわせて、そういったツールド何とか、ツールド武雄じゃなかですけど、武雄で行うような振興策の一個にも考えられんかなと。その辺は ああ、何か策がありそうですので、御答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ロードレースについて、私のところにも副市長のところにもさまざまな好意的な意見が寄せられて、また、これできないかという話までも来ています。できれば、アフターでツールド武雄を行いたいというふうに思っておるんですが、ただ、前向きな私でも、越えなければいけない壁がたくさんあります。警察が許してくれんわけですね。自転車ば通すごたあぎ車ば通せと言われるわけですね。それとか事故に遭ったときの問題であるとか、いっぱい人ば張りつけんといかんわけですね。この前の自転車競技のときも、職員の皆さん、あるいはボランティアの皆さん初め、いっぱい立っとなさったわけですね。そういった無理な負担をかけて動員ができるかどうか、そういった人員の問題であるとか、いっぱい課題があります。しかし、これはお金の出どころがあります。日本サッカー協会ですね、これをちょっと調べて関係者に聞いてみたら、そういうサッカー以外で地域スポーツの振興を図っているという補助金が文部科学省と合同してありますので、もしそれが使えるということであれば、それを活用することによってどこかのタイミングでそのツールド武雄というのはやってみたいというふうに考えております。

ただ、もとよりこれはまだ市役所の長としてではなく、政治家としての見解でありますので、それはこれから十分に詰めていかなければいけないと思っておりますけれども、これはやってみたいなど、私も上田議員とともにぜひ出場したいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

策は何となくわかりました。

今回、策定された武雄市の総合計画ですけれども、財政難、財政難という割には市民の皆さんが待ち望んでいるような福祉の充実とか、結構いろいろ書かれているわけで、そういっ

たのを充実するためにもスポーツ振興が必要であり、材料としては保養村の開発を提案した次第でございます。重ね重ね言いますが、副市長にもスポーツ医科学研究所、県と一緒にあって誘致のアンテナを張りめぐらせて何とかアンテナにひっかけてもらえればなと思って、最後の質問に入らせていただきます。

最後、新幹線についてです。

九州新幹線西九州ルートについてですが、県内はもとより各地で議論を呼んでおり、新聞紙上でも毎日のように掲載されております。市長の演告にありましたけど、この新幹線整備については、ことしが正念場であると言われました。私ももちろん一刻も早い着工を待ち望んでいるわけですが、現在の市長の思いというのをお聞かせ願えればと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

この新幹線は何が何でもやっていくべき課題だというふうに思っております。これは商工会議所、議会、そして観光協会等各種団体、市民全体を含めて、ぜひこれは実現をしていくべきものだというふうに思っております。その決意については揺らぐところはありません。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先日も九州新幹線早期実現佐賀県民大会が行われまして、もちろん私も参加させていただいたわけですが、会場あふれんばかりの人ではありましたよね。しかし、その盛況ぶりとは反対に、着工への道筋というのはいまだに不透明な感じで、個人的には正直腹立たしい気さえしとるわけですよ。沿線自治体の賛成が必要なのもわかりますけど、ことしが正念場と言われるように、本当に正念場と思うとんざとやろうか、この人たちはというような気持ちすらあるわけですよ。何か全然危機感を感じ取れんようなですね。

市長もその席で壇上に上がられておりましたね。その席でどのように感じられたか、そのときの感想をお聞かせ願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

あのときは武雄からも多くの皆さんに、議員の皆さんたちもお越しいただきました。武雄のところだけは異常に盛り上がっておるわけですね。これは、これほど市長として心強く感じたことはありませんが、ほかのところは頭の下がっておるわけですね。だから、ちょっと地域で大分ずれがあるということと、もう1つは本当に、ちょっと長くなりますので省略はしますけれども、新幹線がなぜ必要かというのをきちんと県は言わなければいけないという

ふうに思っています。

1つだけ申し上げますと、これはいろんなところで申し上げます。昔の、今の在来線が僕は新幹線に取ってかわるというふうに思っています。昔の銀バス、赤バスが在来線になったように、その在来線が私は新幹線、そいけん名前のちょっと悪かとかないとも思いますけれども、そういう不必要なものではなくて、地域公共の足としての新幹線、当然世の中のスピードも速くなっています。高齢化が進んで、より快適に速くということもあると思います。そういう意味でのPRをきちんとすべきだというふうには考えております。私は新幹線は生活の足の部分も、観光ももちろんあります。生活の足としての側面があると。

それともう1つが、いつまでやっぱり佐世保線が続くかわからんという危機感があるわけです。公表はされておりませんが、赤字でしょう。あれだけ人の乗っとらんぎんたです。あれで黒字というのはなかなか言いがたい部分があるかと思えます。そういう意味で、ああいう佐世保線等がいつまで在来線として残るかというのは、JR九州が上場を控えた今日、私は保証できるものがないというふうには思っておりますので、今チャンスだと、今、国がつくると言うているときに乗るとというのが我々の役割だと、果たすべき責務だというふうには考えております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

同じ気持ちで非常に安心しました。

私は先般行われた佐賀県知事選、これは記憶に新しいことと思えますけど、この知事選の争点はプルサーマルと新幹線やったと私は思うておったわけですよ。この新幹線、やっぱり県民総意として必要と意思表示したんじゃないかなとか。県民総意やけん鹿島市民ももちろん入るとるわけですよ。そいぎ、そういったところで結局、そこで結論が出たんじゃないかなと私は思うておったわけですけど、反対と言われている方もやっぱり時間短縮メリットってよう言いんさっですけど、やっぱりその人たちというのはどうしても博多ば中心でしか見とんさんわけですよ。そいぎ、我々のははっきり言ってその先を見据えていかんといかんわけで、それでなおかつ、鹿児島新幹線だつて全線開通はまだ先の話ですけど、それでも百聞は一見にしかずで、リレーつばめの乗りかえも含めて、これはやっぱり行って、見て、乗っててすっぎんた、もう全然違うわけですよ。その便利さというのがすぐわかるわけですよ。反対の人たちもやっぱり行ってぜひ乗ってもらいたかなと。リレーつばめですよ、まだ。まだ全線開通しとらんけんです。その分の便利さとかを全体的にもっと訴えるべきじゃないかなと。

もちろんこの手の議論がずっとあつとですけど、もうそろそろ武雄は次のステージに進んでもようなかかなということ個人的には思うわけですよ。もう新幹線通るだけでは地域の

発展はあり得ませんよと、新幹線を生かすまちづくりが必要ですと言われておるわけですが、この武雄市も同様であり、いいかげん話の論点もどうしたら新幹線を生かしたまちづくりができるかを武雄はもう取り組むぞと。それによって、新幹線ありきの話にはなってくるかと思うわけですが、やっぱり新幹線は必要というような、県民感情とか市民感情にも危機感がもっとどんどん生まれてくるように方向を持っていかんといかんとじゃなかかなど。

今、武雄市役所の庁舎内も戦略課という部署があるわけですが、戦略課の本来の仕事というのは、もうそっちに移らんばいかん話やろうもんと。もういいかげんそがんふうに、その県民大会でも、さっき市長が答弁で言いんさったごと、JR九州も民間ですよと、そこをもっととにかく、西九州ルートを着工できんなら、その予算は東北新幹線に回るだけよと、そういったところをもっとどんどん理解させることが必要だなと。

私が個人的に思うのが、今、新幹線を通したい県と反対している鹿島と、要は県知事が決めることやっけんがあればってん、そのパイプは市長しかおらんとやなかかなと思うわけです。もうはっきり言うてですね、どうしても知事とのパイプというのは太かパイプ持っとんさっと思うし、鹿島市も隣接して、私は市長の豊富なアイデア、発想力、これで鹿島市長は口説き落として、もう知事、おいに任せんしゃいというごたるふうで、市長、時の人になる決意はなかでしょうか、御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

上田議員の質問を聞いて、なるほど、そうだと思います。しかし、最後のところですね、私がパイプ役にならずとも鹿島市と佐賀県とはもうきちんとパイプがありますので、そこが私が入ることによって無用な混乱を引き起こしかねないことだってありますので、私はスタンドプレーではなくて、きちんとした計画を上田議員おっしゃったようにつくる段階に来ているんだと。それは単に武雄だけがよくなりますとかではなくて、これをやることによって唐津、伊万里、私は杵藤広域圏の管理者でもありますので、杵藤広域圏がこれだけよくなりますよということの計画、新幹線開通後のまちづくり全体の計画を民間団体も含めて年内に立ち上げたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ頑張ってください、いいかげんこの局面を打開して、先ほどから論議されています高架にしる、新幹線にしるですよ、市民の皆さんの声の中に、高架も新幹線も上の線路が開通して電気が通る前に、例えば、地元の子供たちにも愛してもらえるようなそういった取り組みで、電気が通る前に線路をみんなで歩くとかどうかというような案とかも実際私もいただ

いたわけですね。そういった中でも、やっぱり九州新幹線西九州ルート着工のためにはぜひともパイプを生かして、市長はもう知事のケツをたたくぐらい、とにかくせっぱ詰まるとるよと、市民は早ようしてと思うとるよというとはお伝えしてもらえようなお願いをして、済みません、駆け足になりましたけど、私の一般質問を終わらせていただきます。